

相農飯館分校 第3回校内駅伝競争大会

粘りの走りでタスキをつなぐ



▲8区間のタスキリレー



▲10チームが一斉にスタート

10月27日、相農飯館分校（飯野信也分校長）で第3回校内駅伝競争大会が行われ、生徒たちがクラス対抗で健脚を競いました。

この駅伝大会は、生徒たちの体力向上を図り、クラス内の結束力を高めようと、同校の生徒会などが中心に一昨年から行っているものです。

競技は、1チーム男子5人、女子3人の混合8人編成で、コースは男子が松塚集会所折り返しの一人4・5km、女子はその途中の一人3kmの計8区間で行われ、各クラスから10チームがエントリー。

大会では、校長先生の号砲で第1区の手選手たちがスタート、先生やクラスメイトが応援する中、生徒たちは粘りの走りで着実に次の区間へとタスキをつないでいました。



抱きしめるといふ会話

ここ1カ月、大変忙しい日々を過ごしたので、満足に新聞を見ることもありませんでした。

久しぶりにゆっくり眺めてみたら、いつも公共広告機構（広告を通じて住みよい社会づくりに奉仕しようという団体）が出している「抱きしめるといふ会話」の絵柄が変わっていました。

これまでは、母親が子どもをしっかりと抱きしめている写真でしたが、いつの間にか今度は父親が子どもを抱きしめている写真に変わっていたのです。もちろん、訴える言葉も変わっていました。

がんばれよ、がんばれよ、愛してあげるよ、そんな言葉を口にすることがわたり、父親たちはわが子を抱きしめたりする

父親は母親にはなれぬよ。

「二の腕や胸板が、おっぱいより柔らかくなるよ」といふ永遠にならぬよ。けれど、子どもたちがその温もりで包まれていた時間は、きつと子どもたちの未来までも包み込んでいて、やがて子どもたちを支える大切な心柱の一本になっていく。

子どもをもっと抱きしめてあげてください。

ちっちゃなごころはいつも手を伸ばしています。

このように書いてありました。

私はもう58歳ですから、残念ながら小さな子どもを抱きしめる父親にはなれません。

どうか、今そのことが出来る若いお父さん方、子どもをしっかりと抱きしめる機会をもっと多くもってください。

「抱きしめるといふ会話」は、子どもたちに言葉と同じように、あるいはそれ以上にあったかいものを伝える力があるのかもしれないよ。

平成16年10月28日

飯館村長 菅野 典雄